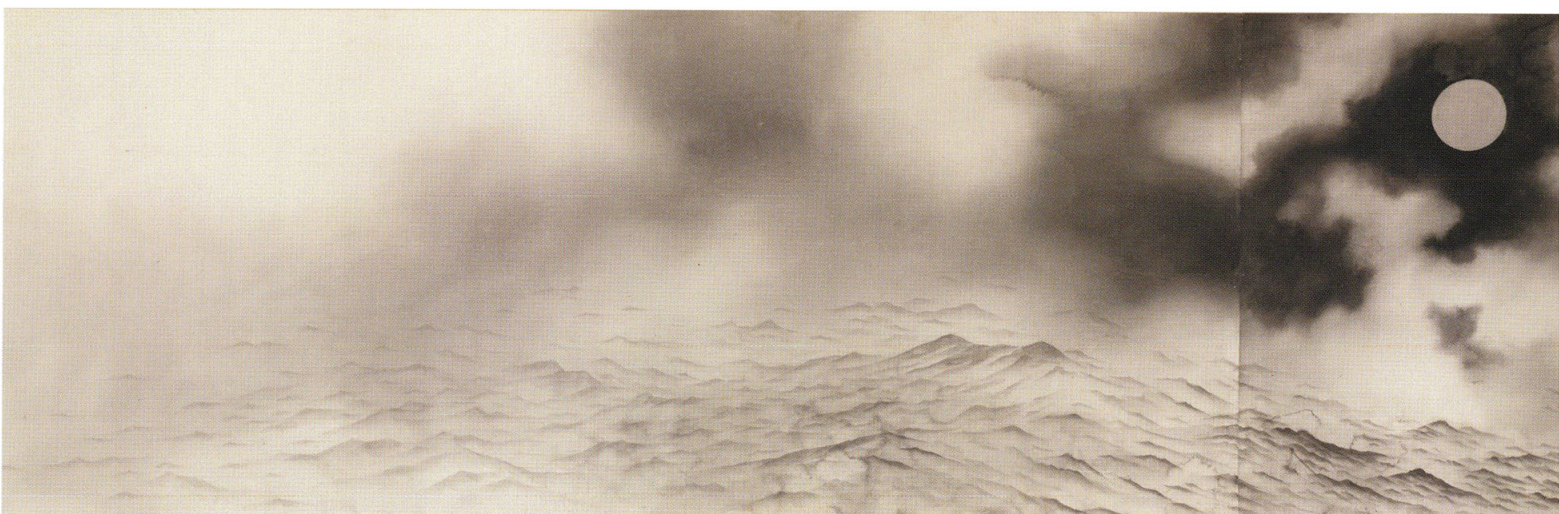




皇居





10 耀く大八洲

一巻

横山大観

昭和十六年（一九四一）

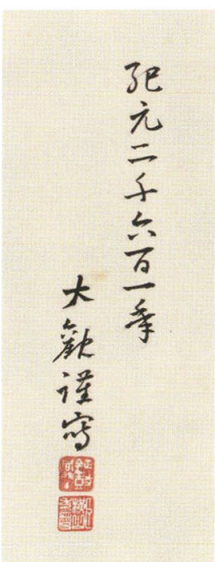
紙本墨画金彩

四七・〇×二七・一六・〇

全長約二十七メートルに及ぶ長大な画面のなかに、日向灘の日輪、高千穂、出雲、樞原神宮、法隆寺、春日大社、宇治平等院、洛中、伊勢神宮と五十鈴川、宮城（皇居）、富士、そして月輪が順を追って描かれる。横山大観が本絵巻を構想したのは、おそらく昭和十五年（一九四〇）のことである。神武天皇即位から紀元二千六百年にあたりとされたこの年、国内では官民一体の祝祭事業が盛り上がりを見せていたことが関係している。画中に描かれているのは、皇室ゆかりの土地や新田の都であり、天孫降臨神話の舞台となった日向国（現在の宮崎県）から帝都東京へと、四季や一日の時間の推移を複雑に絡めながら展開してゆくのである。

大観は「昔から絵巻物を私ほど描いたものはありませんまい」（『大観画談』）と述べているが、本絵巻は白描と水墨の描写を基調としながら、随所に金彩が加えられたことで格調高い画面を生み出している。本絵巻は再興第二十八回院展に出品された後、大観本人が献上を願い出たもので、当初から献上を意識して制作された画題選択が行われている。

巻末落款印章



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan